

岩見沢市地域福祉計画策定委員会（第 2 回）

日時：平成 28 年 11 月 28 日（月）14 時 00 分～15 時 50 分

場所：岩見沢広域総合福祉センター 2 階 第 4 研修室

出席者：堀委員、齋藤委員、佐藤（恵）委員、高松委員、内海委員、山本委員、梅田委員、石合委員、中村委員、東海林委員、北市委員、土田委員、橋本委員、佐藤（昌）委員、高岡委員

欠席者：鎌田委員、湯澤委員

事務局：石崎健康福祉部長、杉野健康福祉部健康福祉推進担当次長、下野福祉課長、青山福祉課主幹、小笠原福祉課総務グループ担当主査、左向福祉課主査

1 開会

2 委員長あいさつ

—事務局より第 1 回策定委員会の議事内容について振り返り説明—

【委員長】

第 1 回の策定委員会について、振り返っていただきました。ただ今の事務局の説明について何かございますか。（なし）それでは、本日の議事に入らせていただきます。本日は議事として 5 つ用意がございます。まず、(1) 岩見沢市の概況について、事務局より説明をお願いします。

3 議事

(1) 岩見沢市の概況について（人口、出生率、要介護者数等のデータ）

【事務局】—資料 P3～P12 に基づき説明—

【委員長】

ただ今、岩見沢市の概況について、事前にお配りいただいた資料との違いを中心に説明がございました。資料の中身については公的に確認されたものなので問題はないと思いますが、資料の表現の仕方ですとか、提示の仕方、或は他にもっとこういう資料があった方がいいのではないかなというようなことでお気づきのことがありましたらご指摘いただければと思います。

では、3 ページから、人口、年齢構成、世帯数、世帯数は一世帯当たりの人員は減っていて、世帯数は増えているという特徴が読み取れます。出生率及び合計特殊出生率について、残念ながら岩見沢でも子ども達の数が増える様子は見られないようです。要支援・要介護者については、事前にお配りした資料では重複カウントしていたために合計が合わなくなっていたところを直していただきました。障がい者数の推移、生活保護受給者の推移、ここではグラフを見やすく改めました。生活困窮者について、町内会・自治会への加入状況、という構成になっています。お気づきになった点どこからでも結構ですので、ご指摘をいただければと思います。

【委員】

5 ページですが、一世帯あたりの人員が減るのは二人暮らしの高齢者がお一人になって、というような事かと想像はつくのですが、世帯数が増えるというのは人口が増えているからではないかという気がするのですが、人口は減っていますので、そのあたりの関係について、ご説明いただけるとありがたいのですが。

【事務局】

分析としては、説明文にもありますが、おっしゃるとおり世帯員が亡くなるなどして一世帯あたりの人員が減ることと人口減はつながっていますし、一人世帯の増加や核家族化ということで、人口は減っているが世帯数が増える要因になっているかと思われます。このあたり、もう少し説明文でわかりやすく記載したいと思います。

【委員長】

上の説明文では、一人暮らし世帯、核家族世帯が増えていることがうかがえますとあります。ここをもう少しわかりやすくということですか。

【事務局】

はい。文章の並べ方などでわかりやすくできるかと思います。

【委員】

説明文を変えるというよりも、例えば、シングルマザーが親元に帰って、5～6人の世帯として暮らしているようなことも一方ではあるでしょう。ここに書かれているとおり、核家族化、親元から自立してそれぞれの世帯に分かれるという事もあるでしょうが、他にも何かないのかなと思うわけです。

【委員】

今のお話で、高齢者二人世帯の1人が亡くなられてという場合、世帯の人員は減るけれども、世帯が分かれる訳ではないので、それが世帯数の増加には結びつかないと思いますので、やはり一つの世帯にいた若い方が親元を離れられて世帯が分かれたということなのか、一人世帯が増えているのかなと感じました。その辺の実態が確かにこの図だけではわからないかなと思います。

【委員長】

そのあたりの実態というのはわかるのでしょうか。町内会のご家庭を見ましても、そういった内情というのはなかなか外には出してくれませんし、公的な資料から何かわかるものでしょうか。例えば福祉の関係などで、ご夫婦でも世帯分離をしているというご家庭もありますし。そうなってくると、世帯数というのは増えてきますでしょうし。

【事務局】

確かに今おっしゃられた色々な事が要因となっているので、断定はできないと思いますが、もう少し分析した上で、この記載内容については検討させていただきたいと思います。

【委員長】

この段階で断定的な事はわからなくても、実態を把握していくことは福祉を充実していくうえでは非常に大切だと思います。方向性をはっきりつかんで、福祉の計画を立てていきますよという表現にしていいただければいいのかなと思います。

【事務局】

昨年度は国勢調査もしておりますので、その中で何か分析できれば、岩見沢だけこの傾向が特異だという事もないと思いますので、全国的な例なども分析させていただきたいと思います。

【委員長】

分かる範囲で載せていただければと思います。他に何かございませんか。

【委員】

11 ページですが、生活困窮者の方が自立していくのは素晴らしいなとこれを見て思うのですが、岩見沢市自立支援センターリンクを立ち上げて相談支援した結果、自立していったという事ですけれども、このあたりの相談などの状況をもう少し説明いただけますか。

【委員長】

確かにこのグラフだけではその陰にある実態みたいなものは読み取りにくいかもしれませんね。

【事務局】

こちらは、全国的には平成 27 年度から法律に基づいて実施しているのですが、岩見沢市では、モデル事業ということで平成 25 年の 10 月から先行して行っておりまして、法律ができてから新たに地域福祉計画に盛り込んで下さいということで出てきた内容ですので、他の自治体の計画の中にはまだあまり入っていない部分です。今回、アンケートの中でも敢えて「生活困窮者」という項目を立てて調査項目としてお聞きした部分でもありますので、その結果も踏まえて、まず概況のところですが、アンケートの生活困窮者の部分と一緒にしてより詳しい説明が必要かと思います。確かにまだ、生活困窮者というのがどういう状況なのかイメージできない方が沢山いると思いますので。

先にアンケートの結果に触れてしましますが、25 ページ、周りに生活困窮者に該当するような気になる方はいますかという設問で、まず生活困窮者とはこういう人ですよと定義した上でお聞きしているのですが、多くの方は気になる方はいないとお答えになっていますが、気になる方はいないというのも、単純に知らないから気になる方がいないのか、知っているけれども放置しているのか、気になる方がいると答えた方のうち、相談や報告は特にしなかったという

方が 7 割となっており、その原因としてはどこに相談していいかわからなかったという方が 35%という状況なわけで、りんくという相談窓口はあるのですが、その存在を知りません、もしくは、そもそも生活困窮者がどんな方か知らないという方がまだまだ多いのかなということが、こちらのアンケートからも読み取れると思うので、これからより一層相談窓口についても、生活困窮者がどういった方かという周知も必要だとわかります。

【委員長】

11 ページの表は、平成 27 年度 22 人の方が就労を開始して、次の年も 22 人就労開始して、この 2 年間で 44 人の方が就労を開始したと読み取っていいのですか。延べ人数でいくと、全部足した 64 人が新しく就労を開始したと。

【事務局】

はい。そのとおりです。

【委員】

確認なのですが、生活困窮者と生活保護受給者とはリンクしているのかどうなのか、生活保護受給者というのはここ数年若干ですが、微減の状態が続いているということは、全体から見るとプラスの方向で、それはこの相談窓口での相談を経て就労が増えている結果、このモデル事業が始まったおかげでという関連性があるのかについて、何かあれば教えていただきたいのですが。

【事務局】

それにはあまり関連性はないのかなと思っております。ただ、生活保護ですが、全国的にも今ピークを越えたといえますか、少しずつ落ちてきておりまして、岩見沢市はその落ちる傾向が少し早く出てきています。それがどのような要因で下がってきているのかというのは、なかなか今はつきりは分かっていないのですが。

【委員】

自治体によって保護受給の基準が違うというニュースも出ていますから、厳しいところは減るだろうしという事もあるのでしょうか。

【事務局】

岩見沢市の面接基準が特別厳しいということはありません。あくまでも適正にその所得や家族、身内の援助状況、就労等で所得が増える要素があるかという事で判断させていただいています。それでも、結果として保護受給者数は減ってきているという形です。

それと、りんくとの関係では、りんくでも職業開拓や就労支援を行っておりまして、実際にリンクの職員が相談者と共に職場に行って就労に結び付ける一日体験、そこから継続的な常勤雇用と繋げているのですが、生活保護を受給されている方というのは今現在一定の所得以下でなかなか自活するのは難しい方でございます。生活困窮の方というのは、もう少しで生活保護

の基準に陥りそうな方、ここで支援をすれば、就労に繋がりそうな方ということで区分はされるのかなと思います。

あとは、リンクで相談を受けた方の中で、実際に就労に繋がる方もいらっしゃるれば、やはりなかなか厳しくて生活保護のほうに繋がる方もいらっしゃると思います。当然、生活保護を受給している方にも就労に繋がってほしいということがありますので、そこは情報交換や相談をしながらやらせていただいているところです。

【委員】

今のお話で、ちょっと勉強させていただきたいのですが、生活困窮者の相談件数が 27 年なら 159 件あって 22 人が就労開始ということですが、これは実人員なのでしょうか。相談件数が 159 件というのは一人が 1 回相談したというだけでなく、2 回 3 回と相談したという事もあると思うのですが実人員の把握は難しいのでしょうか。

【事務局】

これは実人数です。159 人の中で電話相談があった方が 61 人、就労なり他の機関につないだりした方が 94 人、最初から生活保護の受給を開始した方が 4 件という形になっておりまして、延べですともう少し件数は多いと思います。

【委員長】

今のお話を伺いますと、このページは就労を開始した方だけではなくて、他にもこういう対応をとった方が何人いるということがわかるようにすると、この対策が充実してきたかということがわかるのかなと。この図の相談件数に対する就労人数だけだと、誤差が大きくて他の方には何もしてないように見えてしまうかなと思います。

【事務局】

細かい話を申し上げますと、就労するためになかなか字が書けないですとか、会話が苦手ですとか、そういった方に対する訓練、学習支援という事も行っております。リンクはそういった機関なのですが、それも踏まえまして、ここはもう少し厚みを持たせたいと思います。

【委員】

この生活困窮者の部分は、平成 28 年度の 10 月末現在まで数字を追っていますが、人口の取り方などは平成 27 年末までとなっています。先日配られました広報を見ますと、人口の減り方が緩やかになっている状況のようで、これはいいことだなと思ったのですが、この、人口など他の数値は 28 年の 10 月末とはしないのでしょうか。

【委員長】

28 年の統計がみんな出揃うというのはなかなか難しいのでしょうか

【事務局】

基本的には直近 5 年間の推移を載せているのですが、りんくに関しましては新しい事業ですので、28 年 10 月末を載せないで 2 年と何か月分しかデータがないことになってしまうのでお見せしたところなのですが、やはり他とのバランスを考えた方がよろしいでしょうか。

【委員長】

人口などをデータとして 28 年 10 月末と載せるのはむずかしいとしても、人口の減少が歩止まり傾向にあるというコメントとしてどこかに載せられたらいいかもしれませんね。

【事務局】

グラフとしてはもう少しバランスを考えて、委員長がおっしゃったような説明を加えることも検討させていただきます。

【委員長】

他にはよろしいでしょうか。（特になし）では、12 ページまではこれで終わらせていただいて、（2）アンケートの実施結果について、事務局から報告していただき、それに関連してご意見等ありましたら、発言をお願いします。

（2）アンケートの実施結果について

【事務局】—資料 P13～P30 に基づき説明—

【委員長】

今お聞きいただいた通りでございます。今日の段階では、集計した結果をそのまま皆様にお見せしました。これを基にして、今後どのように読み取っていくかということについては、次回の委員会までに整理をしてお示ししたいという説明でございます。それをまとめていく上でのご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

まず、14 ページから 18 ページまでの円グラフで示された部分について、何かございますか。

（特になし）この部分は実態ですので、問題ありませんでしょうか。

では、次の 19 ページ以降に移らせていただきます。こちらは内容が濃いものになってきております。何かご意見ございませんか。

【委員】

少し戻るのですが、16 ページの暮らしの状況ですが、やや苦しい、大変苦しいで 40%強ありますね。それと、17 ページ、最近一か月、ほとんど外出することがなかった方も 30%を超えていて、近所の人との付き合いの状況を見ましても、60 歳以上の方の生活が苦しいということがうかがえるのですが、健康状態が思わしくない方も多いようで、こういった方達というのは、色々な組織、例えば、老人会に入っているとか、卓球をしているとか、カラオケをしているとか、そういう活動をしている方の割合がどれくらいなのかはわかるのでしょうか。

老人クラブも加入が年々減っている状況にあるとも聞きますし、パークゴルフをやられてい

る方も減ってきているようですし、最近はガーデニングやカラオケをされている方は多いようですが、他は軒並み減ってきているようなのですが、そういった高齢者がどのような団体といえますか、趣味と言いますか、傾向がわかるものならばと思うのですが。

【事務局】

このアンケートの中でいきますと、活動状況が一番わかるのが 19 ページになるかと思うのですが、町内会、老人クラブ、趣味の活動とあって、「趣味」の内容、例えばカラオケですとかまではこのアンケートではわかるようにはできていないのですが、ここの問いについて、年代別にクロス集計したときに、高齢者の方が参加しているのがどの活動かというところまではお見せできると思います。

【委員長】

年代別にという分析はしたいということですね

【事務局】

はい。今考えているのは、性別と、年齢別と、地域別にというのはそれぞれの設問でクロスに取ってお示ししようと思っています。

【委員長】

地域活動というところでは、他には特にございませんでしょうか。（特になし）それでは、21 ページ以降ではいかがでしょうか

【委員】

現在困っていること、ということで、雪も降ってきましたけれど、「除雪」というのがとても多くなってきていますが、これはやはりこのアンケートを回収した年代で 60 歳代 70 歳代以降が多いから、という事なのでしょう。若い方というのは自分でできるからそれほど困っていないかもしれない、というのは、やはり年代別に見てみないとこの集計だけでは実際の傾向というのは掴めないかもしれませんね。

【事務局】

おっしゃるとおりです。この困っていることと将来心配なこととリンクするような形で 23、24 ページの地域の中でできる手助け、受けた手助けというところでも「除排雪」というのはやはり多くておりまして、この受けた手助けに除排雪を上げているのが高齢者ばかりなのか、若い方でも自分でひとまずはできるけれども手助けを受けたいと思っているのかは、年齢とクロスすることで見えてくるかと思います。

【委員】

ぱっと見た感じ、高齢者の回答が多いからこういう結果になっているのかなと読み取ったのですが。心配なことで医療・年金・介護の負担、自分の健康、除排雪というのが多いので。

【委員長】

年代によって大きく変わりますね。困ることや心配な事というのは。年代別に集計していただけるということで、そうするとより実態がわかると思います。

【委員】

細部に渡っては難しいと思いますので、これくらいの大まかな質問で傾向が掴めるというのが大事かもしれませんね。岩見沢に住んでいる以上、大雪といっても災害ではないですから、岩見沢に生まれて、あるいは転勤で住むようになったとしても、岩見沢が豪雪というのはもうわかっていることで、雪は降るものだと思いますよね。それでも大変だと思うのはもちろんのことで、それを答えてくれたこのアンケートというのは本音の部分で貴重だと思います。

【委員】

分析は可能な限りやっていただくとして、これから話題、問題になる、この「地域福祉計画」に必要なデータは詳しく掘り下げるけれども、把握はしたけれども今後の計画には直接関係してこないという部分は、作業としてある程度省略していいのではないかと思います。

今回このアンケートを見て、よくできたアンケートだったなと思っております。あとは、無回答というのがところどころ何十パーセントを超えたりしていますので、この無回答というのがどういう意味を持っているのかというのは気にして見ているのですが、地域の中で受けたいと思う手助けというところで無回答が 58%を超えているというのは、町内会の加入率なんかと関連があって、こうしたいと思う事もなかなかわからないし、こうしてほしいと思う事も自分の中で整理がつかないということが実態を表しているのかなと、そういう実情なのかなと解釈しながら読ませていただきました。無回答というのがどうしてかなと思う反面、これが市民の方が地域で暮らす実態なのかなと、そんなふうに思いました。

【委員】

将来心配なことで医療・年金・介護などの保険料負担といった場合、年金保険料について高齢者はもう負担していないでしょうから、この3つを同列に並べたときに、ちょっとどうなのかなとは思いました。

【事務局】

確かにその通りでした。いずれにしても、年齢とクロスしたときに、より実態が見えてくると思いますので、次回までにお示ししたいと思います。

【委員長】

委員さんがおっしゃられたとおり、我々がこれから策定しようとする福祉計画に関わる内容について、少し掘り下げていただきたいと思います。ある程度絞らないときりがなくなってしまいますので、そのあたりの見極めも大事ですね。

例えば今の「年金」で心配だとは言っても、国の方針が先にあるものについては、深くは無理かなとか、それよりも、先ほどの地域の中で何をしてほしいか、何をしたらいいかわからな

いような、地域づくりといったところがクローズアップされたときに、何か我々ができることがあるのではないかとしますので、その辺を選んで少し掘り下げていただければいいのかなと思いながらお話を聞いておりました。

他に、目を通していただいた中で何かございませんでしょうか。

【事務局（部長）】

すみません、さきほど、10・11 ページのところで、生活保護受給者と生活困窮者の関係について、あまり関連はないと申し上げてしまったのですが、こちら誤りでした。申し訳ありません。

例えば、就労開始した方がいらっしゃるんですが、この方たちの個別の所得までは把握していないのですが、保護課に確認したところ、この中にも、もし就労しなければいずれ生活保護を受給せざるをえなかっただろうという方がいらっしゃいました。ですから、ここをやはり頑張ることが、ストレートに生活保護の受給者が減るという事にはなりません、この支援を頑張ることが、保護受給率の減には関わってくると思います。失礼いたしました。

【委員】

勉強不足で申し訳ないのですが、生活困窮者の内数として、生活保護受給者の方は入らないということよろしいのでしょうか。

【事務局】

はい、この中には入っておりません。

【委員】

であれば、ここでこの生活困窮者というグラフを見せるのだとしたら、用語解説と言いますか、「生活困窮者」というのがどういう立場の方々を指すのかを示していただかないと、国語的には困窮しているわけですから内数として読み取ってしまう事が多いかなと思います。

【事務局】

はい、公的扶助を受けている保護者とは違いますということをもう少しわかりやすく示させていただきます。

【委員】

今のお話ですと、生活保護を受給したいと相談に行った場合に、りんくの方に窓口を紹介されるという場合もあるという事でしょうか。

【事務局】

はい、それはあります。

【委員】

りんくで相談して、そこで頑張って就労に繋がれば、それは生活保護を受けなくて済むというような関連性はあるということですね。であれば、生活困窮者とりんくについてやはりもっと詳しく解説していただけるとわかりやすいと思いますのでよろしくお願いします。

【事務局】

かしこまりました。

【委員長】

25 ページの、生活困窮者に該当するような気になる方の有無ですとか、相談状況とかありますが、どなたが生活に困窮しているのか、どなたが生活保護を受給しているのか我々にはなかなかわからなくて、どれほど踏み込んでいいのかということも難しいですね。

27 ページに入りますと、社会福祉協議会についてという項目もございます。社会福祉協議会さんも与えられた範囲の中で精いっぱいの事をやっておられるだろうと思いますが、意外にその内容については知られていないという事もあるようです。

【委員】

事業の内容をやはりあまり理解されていないように思います。私も団体として関わるようになって初めて事業の内容が全部把握できたような状態ですので、市民の方はそれほど理解できていないかもしれません。これはあくまでもアンケートの結果ですので、そこは受け止めるだけだと思います。

【委員長】

このあたりのことを基にして、社会福祉協議会の事業の内容などももう少しPRしていくとか、皆様に分かってもらえるようにというのが必要なのかもしれません。

【委員】

広報紙もきちんと出しているんですけども、果たして皆さんが読んでくださっているのか、というところだと思います。

【委員】

感想ですけども、ある町の、社協の事務長さんでしたかのお話を伺って、町ですから可能なのかとは思いますが、まちの隅々まで社協さんが色々とやってらっしゃるという話を聞いて感動したのですが、岩見沢程の規模となるとそういう訳にはやはりいかないんでしょうね。そのお話を聞いたときに、私も初めて社協はこういうお仕事をするのかとわかったものですから。地域住民と関わるのが町連さんだけかと思っていたのですが、ああ、社協さんがいいお仕事をしてくださると、地域住民にとってはすごくいいんだなと思ったものですから。

【委員】

今社協のお話ですけれど、ボランティアの活動の推進ですとか、このアンケートでも皆さん関心高いですね。ボランティアセンターでも普及や推進に関して力を入れていて、色々な講座も開いています。それで、講座には人数は集まってきます。ですけれども、ボランティアには繋がらないといいますが、講座は受けていただけるけれどもその後の活動には繋がらない。現在いるボランティアさんたちは、高齢化が進んできていますが、皆さん元気なうちはなんとか協力しましょうということで頑張ってくれてはいるんです。そのところが私たちもやはり今後の課題かなと思っていますところです。

【委員長】

そのあたりを、この計画の中でどのように位置付けていけるのか、この中で社協さんにこのところを頑張ってくださいよという形になるのか、この計画の中で社協さんとの連携をどのように進めていくのかという事を盛り込んでいけるのかというあたりを整理しなければいけないですね。

【委員】

活動している方たちというのは、町内会の活動とリンクしているといいますが、求めている人も応えている人も同じ人たちが動いているというのが現実だと思います。今、委員さんがおっしゃったように、講座などでこういうことを理解しましょう、と、いいことがあって勉強して、いいお話を聞いてきたよ、こうなんだよ、というところまでは同じですけれども、それでは自分がそれに加わって一緒に行動するとなると、その中にはその気持ちはあるけれどもここにあるように体力的にできていないという場合もあるでしょうし、生活の部分から考えたら、金銭的にも動くためには費用がかかるわけですから、継続できないという部分があるのかなと思うとなかなか難しいですね。

【委員】

いいことはわかっているんですね。だけれども、いいことだから皆が参加するかということなかなかそうはいかないということですよね。一人ひとりみんな事情があってできない人も沢山いるということかと思います。委員さんがおっしゃったように講演は聞くけれどもいざやるとなると個々の事情が付いて回るのが生活ですから、他人が見て思うように人は動かせないんですね。その辺りをどういうふうにしてもう少し皆で助け合えるように作っていったらいいのかなと。これからの岩見沢としてはどうやって若い人がお互いに力を貸し合える体制を作っていくのかという事が必要なんでしょうね。

岩見沢というところは観光など見るところは少ないですけれど、いいところは災害が少ないということだと思います。困るといっても雪ぐらいですね。その中でどうやって若い人が助け合いに参加してもらえるか、となり合っているところぐらいの身近なところからでいいと思うんですけれど、どうやって持っていくかだと思います。

【委員】

ボランティアセンターも、小さいときからボランティアの芽を育てたいという思いがありますから、岩見沢市内の小中学校、最近は高校も協力してくれていますけれども、総合的な学習の時間というのがあって、その中でボランティアの実体験をしたり、講話を聞いたり、随分増えてきています。学校さんの要望にはなるべく応えるように、ボランティアセンターも力を入れて取り組んでいます。

そのなかで、センターとして行政にお願いごとがありまして、学校で福祉の学習をするときに、例えば車椅子の生活についての実体験などをすることがあって、社協から 15 台～20 台車椅子を運ぶことがあるんです。それを、以前は教育委員会で運んでくださっていたんですが、2 年ほど前からできないという事で、自助努力で学校さんで運ばなくてはいけなくなったんです。今年も学校で苦勞して、先生たちが自分の乗用車などで運んだりして下さったんですが、今後は学校さんもこの状態だともうできないというところも出てきているので、できればそういったところの応援も教育委員会としてお願いできればと思っていますところ。お願いごとで申し訳ないのですが。

【事務局】

それは教育委員会にしっかり伝えさせていただきます。

【委員】

この膨大なデータを見て、例えば、21 ページの困っていることだったり、22 ページの将来心配なことだったり、28 ページの特に力を入れて取り組んだ方がいいと思う事などの上位を見ていくと、医療、健康、除排雪、ボランティア、高齢者福祉、それから災害時、といったキーワードが出て来ますが、ここの数字が大きく出ているところが捉えどころと押さえたらいいいのかなと思います。

この福祉計画の位置付けというのが 31 ページに大きな図があって、岩見沢市全体の計画に対して力づけ、重みづけを加えていくという意味合いもあるのだとしたら、さっきの福祉の部分がどこに一番シフトしていくのか、例えば健康の部分で行けばどこにアタックしていけばいいのか、健康ならば岩見沢市には既に健康増進計画があるので、そこにどのように重みづけをしていけばいいのかという話になるし、ボランティアだったら、今、委員さんからお話があったように、教育でどうなっているだろうというような視点が出てくるのかなと。

それから、例えば災害という言葉があったとしたら、市の防災はどうなっているのか。そうしたら、だいたいこの辺だなということがなんとなく見えてくるのかなと思います。その時に、今回ここで調査した項目と突合するような項目がきっとあるんだと思います。例えば、岩見沢市の健康増進計画を立てる時に、取っているデータがあると思います。そういうものと今回のものを突合する必要があるかもしれない。それから、岩見沢市の社会福祉協議会では学校にどのくらい福祉の勉強で行っているのか、といったデータがあるはずですし、学校現場にはボランティア教育をどのくらいやっているのかという事や、今、市で力を入れている認知症サポーターについてどのくらい学校で育てているのか等というデータもあるはずですので、この福祉計画がどういう方向に、どこに重みづけをしていくのかが見えてきたときに、相手側のデータ

との突合も、ある程度必要なのかなという気がしています。

2 つ目は、23 ページを見ていただきたいのですが、困っていることや心配な事の相談相手というところで、少ない数値がありますね。例えば民生委員・児童委員が少なかったり、市役所が少なかったり、電話相談が少なかったり。今、多いデータの事も申し上げましたが、少ないデータにも取り組む要素があるのかなという気がしているので、そういう注目の仕方もあるのかなと思います。

最後ですが、4 ページの平成 27 年度の人口を見ると、56%くらいの実働部隊がいるんですよ。それを考えて 14 ページの今回の調査の年齢層を見ると、実働部隊はほぼ 30～50 代とすると、39%くらいです。実際に岩見沢市には 56%くらいの実働部隊がいるけれども、今回の調査ではそこまで拾っていないで 40%位だということで、違いが出てきていて、だとしたら、先ほどから話題に出ている、年代別のクロス集計をして、見えてきたことの取扱い方に、その数字の違いを加味しながら取り扱っていく必要があるのかなという、この 3 点感じました。

【委員長】

今まで出していただいたデータをどのように読み取り、どのように位置付けていくかということについてお話しいただきました。ちょうど 31 ページからの次第 (3) 岩見沢市地域福祉計画の位置づけから (5) 具体的な施策ということに関わってくると思いますので、そちらに移らせていただいて、まず事務局からの説明をお聞かせいただきたいと思いますがよろしいでしょうか。(異議なし)では、事務局お願いします。

(3) 地域福祉計画の位置づけについて

(4) 計画目標(方針)について

(5) 地域福祉を推進するための具体的な施策について

【事務局】—資料 P31～P37 に基づき説明—

【委員長】

この福祉計画の基本的な位置づけ、考え方、そして、出来上がったイメージ図、こういうものを作りたいと考えていますという、この中に、アンケートの結果を組み込んでいきたいというところまで示していただきました。今まで出していただいたご意見がだいたいこの中に含まれていたのではないかと思います。何か他にお気づきの点や、要望等ございましたら発言をお願いします。

【委員】

一つ確認させていただきたいのですが、9 ページの障がい者数の推移というところで、身体障がい者は減少している一方、知的、精神障がい者は増加しているというのは、こういった要因があるのか、わかることならちょっと説明していただいてもいいですか。

【事務局】

これは、全国的な傾向なのですが、身体障がい者の方は減少傾向、知的障がい者、精神障が

い者の方は増加傾向となっています。昔は、知的障がい者の方というのはあまり外に分らないようにという時代がありましたが、今は、そういう方々が、障がいのある方もない方も皆さん一緒に暮らしていくということで、色々な制度を受けられるようになりましたし、小さいうちから手帳を持ったりサービスを受けたり、療育を受ける、訓練をして、一般の生活を、という傾向にありますので、今まで知的障がいを持った方が少なかったというよりも、もっと皆さんと一緒にという面で、増えてきたのかなと思います。精神障がいの方は、大人になってからやはりメンタルの面など、今の時代と言いますか、環境もあるのかなと思いますが、若干増加傾向にあると言えます。

【委員】

福祉課からのデータで、様々な年代の方でということですね。理解できました。

【委員長】

それでは、今日の話し合いの全体を通して何かございませんか。

【委員】

37 ページ、事務局の説明がありましたが、先ほどから話題になっているところがある程度繋がっているなと読ませていただきました。例えば、イメージ図の右側の基本施策 1 から 12 までありますが、例えば、12 のボランティア支援体制の強化とか、ボランティアセンターの機能強化など、委員さんからもお話のあった部分ですが、アンケートでいくとどこに繋がるのかなと思って見ていましたら、23 ページに、地域の中でできると思う手助け、実際にしている方もいるかもしれないし、やりたいと思っているかもしれない、この中に色々な項目があるけれども、ボランティア活動として、呼びかけたら一緒に出来ることがあるかもしれない、と、そういうふうに捉えていけるのかなと。

同じ項目で、24 ページの受けたいと思う手助け、例えば、1 %というのがどのくらいの数かと考えると、複数回答だけれども 1,472 人のうち 1%となると 14 人いるわけですね。2%なら 30 人。これを市民全体で考えたときに、まともにその数字を当てはめたら膨大な数になるわけです。ボランティアもそうですが、町内会や自治会、地域のコミュニティの中で、どんな事が求められているのかとなると、地域の中で受けたいと思うとか、あるいは出来ると思う中身に繋がるというような意味で、これから検討する場合は、アンケートの項目に対する回答というだけでなく、ここにある回答者の意図はどの辺にあるのか、思いが今後の施策の中に繋がる、加わるんだと、そういうふうにこのアンケートを読み込んでいくことが大事なかなという感想を持ちながらお聞きしました。

【委員長】

これから計画を作る上での大切な事をご指摘いただいたのではないかと思います。他に何かございませんか。

【委員】

できれば検討してもらいたいなと感じたのは、先ほど委員さんからのお話もあって、これからボランティアを担う人を育成するというのはとても大切な事で、この基本施策9番目の中で、教育分野とも連携「など」と書いていますが、ここはもっと積極的に、福祉の実態や福祉行政について若い人たちに啓発する、そして、できることならば教育現場でも積極的に、例えば今年は障がい者の差別解消法なども出ていますが周知が少ないのではないかなと思ったりもするものですから、そういう現場へ、もっと積極的に福祉の担い手をこれから作っていくんだというような強いメッセージがあると嬉しいなと感じました。

【委員長】

ぜひご検討をお願いしたいところですね。とても貴重なご意見ですし、これからの計画の具体化の中で、岩見沢らしさを活かせる部分だと思います。他にございませんか。

【委員】

蛇足かもしれないのですが、今年学校で福祉の勉強をしたときにお話したのは、障がい者に対する理解、これはもちろん大事だけれども、もうあと30年もしたら、4人に一人が高齢者になるというときに、自分だっていつかは障がい者になるんだという観点が必要でしょうし、今の小学校1年生が大学生になるときには62%が今はない職業と言われているのですが、福祉分野の職業というのは、その頃になると今想像もつかないような広がりを見せているはずで、子ども達にとってみると、それはただ単に福祉の勉強をして、福祉に対して理解を得るというよりは、自分たちのキャリア教育だったり、生き方を考えることに直結したりしていると思うんです。そういう視点からも、たぶん教育の現場でもこのことはすごく重要なファクターになっていくだろうなという事は感じています。ご意見はごもっともだし、提示されていい部分ではないかなと思います。

【委員長】

今のような、教育との関わりということになってくると、この括りだけでは十分ではなくて、もうちょっと広げていかななくてはならないことになりますね。そのあたりへの配慮といいますか、考えていかなければならないと思いますし、そのあたりの検討を、なかなか難しいとは思いますが、お願いできればと思います。

【事務局】

今のお話でいくと、庁内の体制としては教育委員会の方々も計画の策定委員として検討はしているのですが、それ以外の部分でどこまで広がりを持たせられるか、また今後の課題とさせていただきます。

【委員長】

長時間にわたって休みも取らずお話をいただきまして、申し訳ありませんでした。大変有意義な話し合いができたのではないかなと思いますが、如何でしょう、言い忘れたことがおあり

の方はいらっしゃいませんか。(なし)

では、今日はここで終わらせていただいて、第3回に引継ぐという事でよろしいでしょうか。
(異議なし) それでは、第3回の策定委員会についての資料が出ておりますので、これについて事務局から説明をお願いします。

4 その他

【事務局】—第3回委員会の候補日について提案、委員の都合を確認—

【委員長】

それでは、皆さまのご意見いただきまして、大変年末も押し迫った時期で申し訳ありませんが、第3回の策定委員会は12月27日の午前、という事で、おそらく10時頃かと思いますが、詳細は追って事務局からご案内いたしますので、大変かとは思いますが、ご出席をよろしくお願いいたします。

以上でございます。委員の皆さん何かございませんか。(なし) それでは、長い時間ありがとうございました。第2回の策定委員会を終わらせていただきます。